

第2回 横須賀市都市計画マスタープラン検討会議 資料

1. 都市づくりの目標-----	1
2. 将来の推計人口-----	2
3. 将来の都市構造について-----	4
(1) 拠点ネットワーク型都市づくり-----	4
(2) 骨格的な都市構造-----	6
① 拠点の配置と連携-----	6
② 交通の骨格-----	7
③ 都市環境の骨格-----	8
(3) 都市魅力の創造-----	9
(4) 将来都市構造-----	10

平成27年1月8日

横須賀市都市部都市計画課

1. 都市づくりの目標

【都市計画マスタープラン改定にあたっての主要課題】

1. 都市活力の維持

- ・人口減少への対応（30代、40代の社会減を抑制）
- ・中心市街地の活性化、都市機能集積強化
- ・地域の拠点市街地での機能強化
- ・周辺市街地の再生（空き家への対応、生活サービス機能の充実）
- ・産業活動の場の適正配置
- ・首都圏の広域交通ネットワークへの便利な接続

2. 都市の魅力の発信

- ・海と山の魅力を活用した都市づくり
- ・歴史文化を活用した都市づくり
- ・環境共生型の都市づくり

3. 暮らしやすい環境の形成

- ・多様な居住環境の形成（都市型住宅、住宅団地再生、自然調和型住宅）
- ・高齢者が暮らしやすいまち、子育てがしやすいまち
- ・生産年齢人口の世代に選ばれるまち

4. 安全で安心な都市づくり

- ・東日本大震災後の都市防災、減災への対応
- ・災害に強い安全なまち
- ・道路、トンネル、上下水道等のインフラの長寿命化と適正更新

5. 市民・企業等の参加による都市づくり

- ・多様な主体が参画する都市づくり（管理、運営、事業への参画）
- ・地域運営協議会等と連携した地域課題への対応

【横須賀市基本構想・基本計画・実施計画の方針等】

○実施計画・「選ばれるまち横須賀」に向けた最重点施策

- ・子育て・教育環境の充実
- ・生涯現役社会の実現
- ・地域の経済の活性化

○基本計画・まちづくり政策の目標とまちづくりの推進姿勢

- ・いきいきとした交流が広がるまち
- ・海と緑を生かした活気あふれるまち
- ・個性豊かな人と文化が育つまち
- ・健康でやさしい心のふれあうまち
- ・安全で快適に暮らせるまち
- ・市民協働によるまちづくりの推進
- ・効率的な都市経営の推進
- ・地方分権と広域連携の推進

○基本計画・本市に必要な都市力

- ・子どもを育てやすい
- ・生涯をいきいきと過ごせる
- ・安全・安心に暮らせる
- ・自然環境が魅力的
- ・利便性が良い
- ・活気がある
- ・市民や地域の力がある

○基本計画・政策展開の基本方針

- ・未来を支える人材の育成
- ・高齢者の活力が生かされる社会の実現
- ・人を引き付ける魅力の創出

○基本構想におけるまちづくりの基本目標

- ・都市像「国際海の手文化都市」

○国の都市づくりの施策の方向

多極ネットワーク型コンパクトシティを目指して、都市全体の構造を見渡しなが、住宅及び医療、福祉、商業その他の居住に関連する施設の誘導と、それと連携した公共交通に関する施策を講じることにより、市町村によるコンパクトなまちづくりを支援

【都市計画マスタープラン改定の基本的方向（案）】

○都市づくりの目標

『豊かな暮らしといきいきとした交流をはぐくむ都市
～横須賀固有の都市魅力で多様な暮らしや交流の場が選ばれるまち～』

○計画年次：平成28年（2016年）～平成47年（2035年）

○推計人口：約33万8千人

○拠点ネットワーク型都市づくり

⇒拠点ネットワーク型都市の概念／拠点の連携と配置／交通の骨格／都市環境の骨格

○都市魅力の創造（都市計画としての展開の方向性イメージ）

1. 子育てがしやすいまちをつくる

- ・医療、保育関連施設の立地誘導（駅前等の便利な場所での高度利用による施設誘導）
- ・子ども連れで街に出やすい環境（ユニバーサルデザインのまちづくり）
- ・まち中での広場や休憩スペースの充実、など

2. いろいろな住まい方ができるまちをつくる

- ・拠点市街地での便利な住まい
- ・海をまじかに感じるリゾート感のある住まい
- ・「食と暮らし」を实践できる田園型の住まい
- ・独特の「静かさ・雰囲気・風景」を実感できる谷戸の住まい
- ・静かに便利に暮らせる周辺市街地の住まい

3. いろいろな楽しみのあるまちをつくる

- ・拠点市街地での賑わいと魅力ある商業空間の整備
- ・歩いて「アメリカ」を感じることでできる街並みの整備
- ・海と山を身近に楽しめる自然環境の保全活用（散策、ジョギング、ハイキング、サイクリングのルートの充実など）

4. 地域力を生かした活力を育むまちをつくる

- ・工場跡地等での適切な土地利用誘導
- ・情報・創造型産業の立地誘導
- ・6次産業化や地産地消に関連する施設等の柔軟な立地誘導
- ・健康、スポーツ振興を促す土地利用誘導
- ・日本の近代化発祥の歴史を活かした交流空間づくり

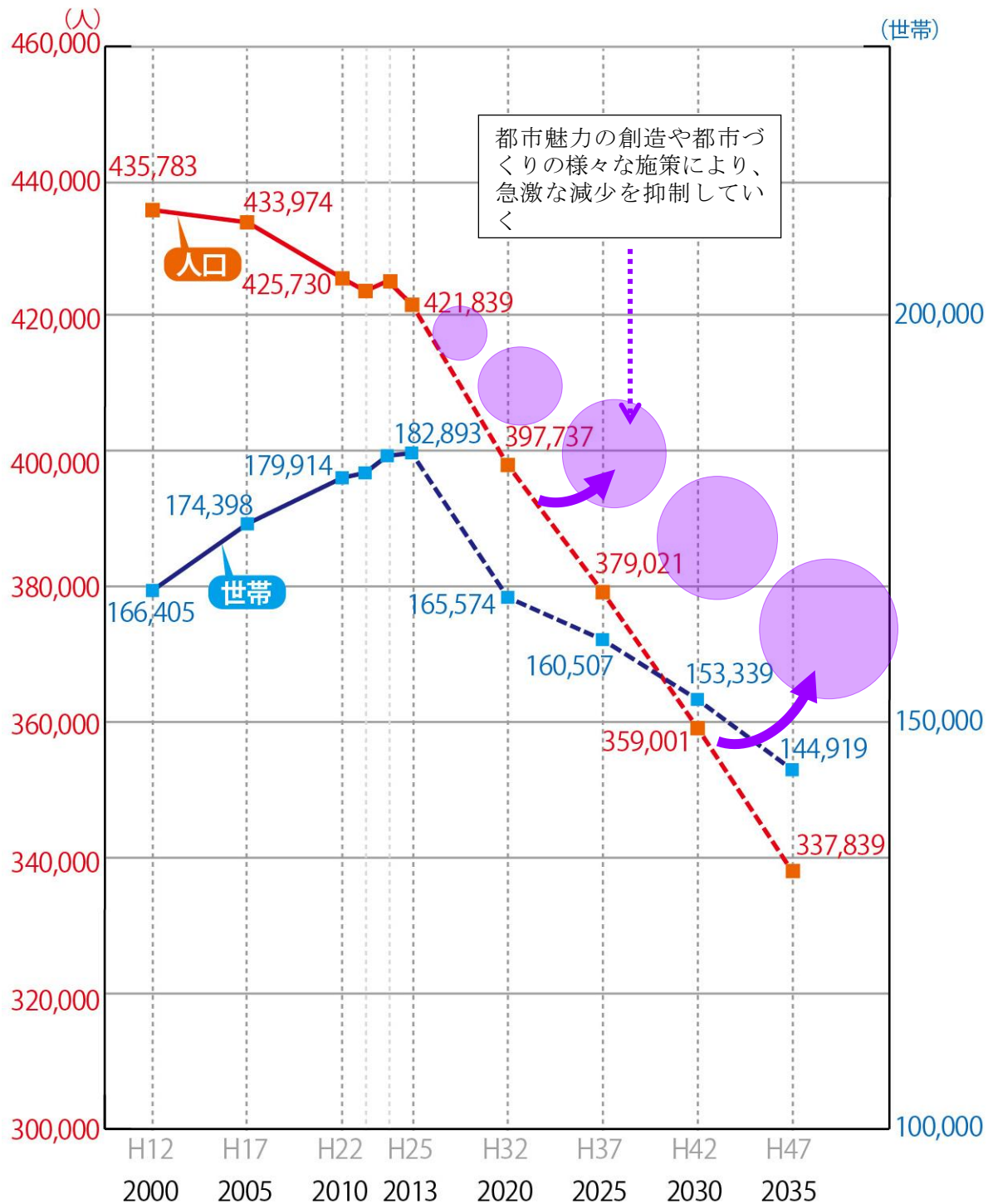
5. シニア世代が生き生きと暮らすまちをつくる

- ・医療、福祉、健康増進などの機能と連携した住宅の立地誘導
- ・多世代居住の推進、支援
- ・健康増進のためのまちなか環境の整備（健康増進型の公園、散策路や休憩所、スポーツ・温浴施設等の立地誘導）
- ・シニア世代の参加を促すまちづくりボランティア体制の充実

⇒地域の個性を生かした都市魅力の創造・発信の考え方

2. 将来の推計人口

- 本市の将来推計人口は減少の一途を辿る傾向を示している。このままの傾向が続くと仮定して計算すると、平成25年の約42.2万人から平成47年には約33.8万人と約8.4万人の減少と算出されている。
- 世帯数については、平成25年までは増加していたが、今後は減少に転じると予測されており、平成25年の約18.3万世帯から平成47年には約14.5万世帯と約3.8万世帯の減少と算出されている。



横須賀市都市政策研究所による推計（各年10月1日現在）

【年齢4区分別人口推計】

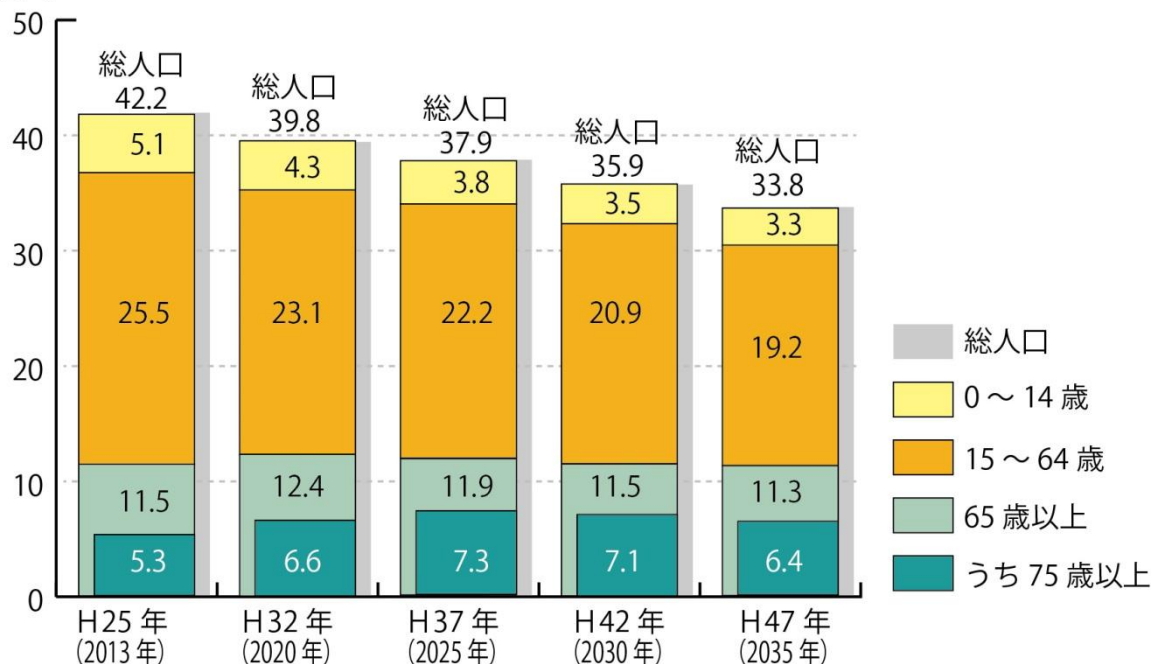
- ・ 0～14歳はH25年の約5.1万人からH47年には約3.3万人と、約1.8万人の減少と算出される。
- ・ 15～64歳はH25年の約25.5万人からH47年には約19.2万人と、約6.3万人の減少と算出される。
- ・ 65歳以上はH25年の約11.5万人からH32年には約12.4万人と増加し、その後は減少傾向になりH47年には約11.3万人と約0.2万人の減少と算出される。
- ・ 75歳以上はH25年の約5.3万人からH37年には約7.3万人と増加し、その後は減少傾向になりH47年には約6.4万人となる。

◆年齢4区分別推計 : () は割合%

	H25年 2013年	H32年 2020年	H37年 2025年	H42年 2030年	H47年 2035年	H25～47の 増減
総数：人	421,839 (100.0)	397,737 (100.0)	379,021 (100.0)	359,001 (100.0)	337,839 (100.0)	▲84,000 0.801
0～14歳：人	50,995 (12.1)	42,674 (10.7)	37,909 (10.0)	34,678 (9.7)	32,950 (9.8)	▲18,045 0.646
15歳～64歳：人	255,468 (60.6)	231,193 (58.1)	221,738 (58.5)	209,410 (58.3)	191,890 (56.8)	▲63,578 0.751
65歳以上：人	115,376 (27.4)	123,870 (31.1)	119,374 (31.5)	114,913 (32.0)	112,999 (33.4)	▲2,377 0.979
うち75歳以上：人	53,461 (12.7)	65,594 (16.5)	73,455 (19.4)	71,124 (19.8)	64,433 (19.1)	10,972 1.205

横須賀市都市政策研究所による推計（各年10月1日現在）

(人口：万人)



※総人口、4区分別人口は四捨五入によることから合計は一致しない。

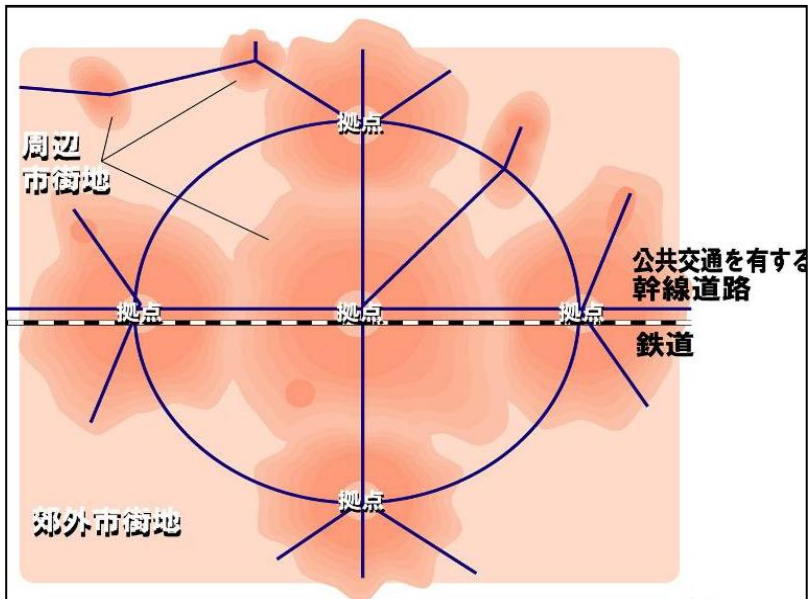
横須賀市都市政策研究所による推計(各年10月1日現在)

3. 将来都市構造について

(1) 拠点ネットワーク型都市づくり

人口減少・高齢社会に備えて、市街地をコンパクト化し、それぞれの拠点をネットワークさせていく、効率的で利便性の高い暮らしやすい都市づくりを目指していく。

○これまでの推移を放置しておくと・・・

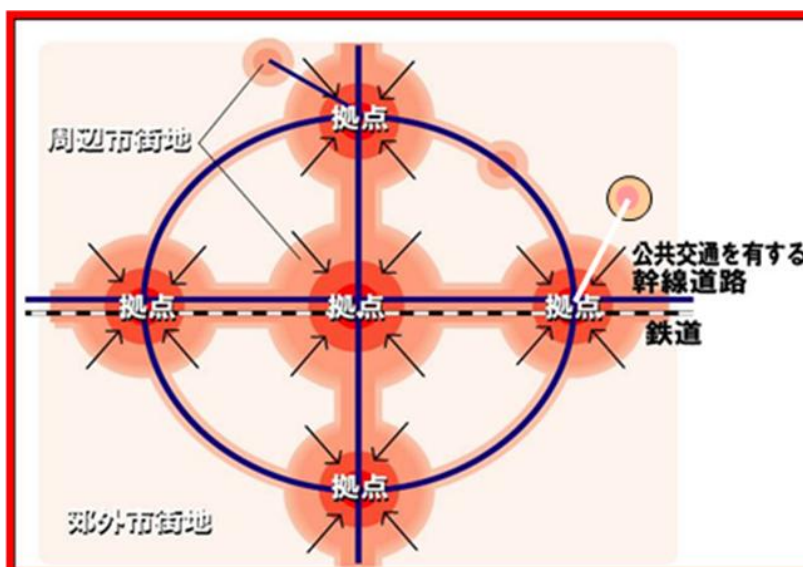


人口減少の中で、従来の市街地の拡大傾向が続くと、市街地は希薄化していく

- ・ 拡散した都市施設の維持管理に必要なコストの増大が予測される



○これからの都市づくりは・・・



拠点ネットワーク型の都市構造を目指す

- ・ 無秩序な市街化を抑制し、拠点市街地や周辺市街地に集約化を図る
- ・ 鉄道駅周辺等を中心に都市機能を集約
- ・ 幹線道路や公共交通網による連絡を強化

◆機能集積の考え方

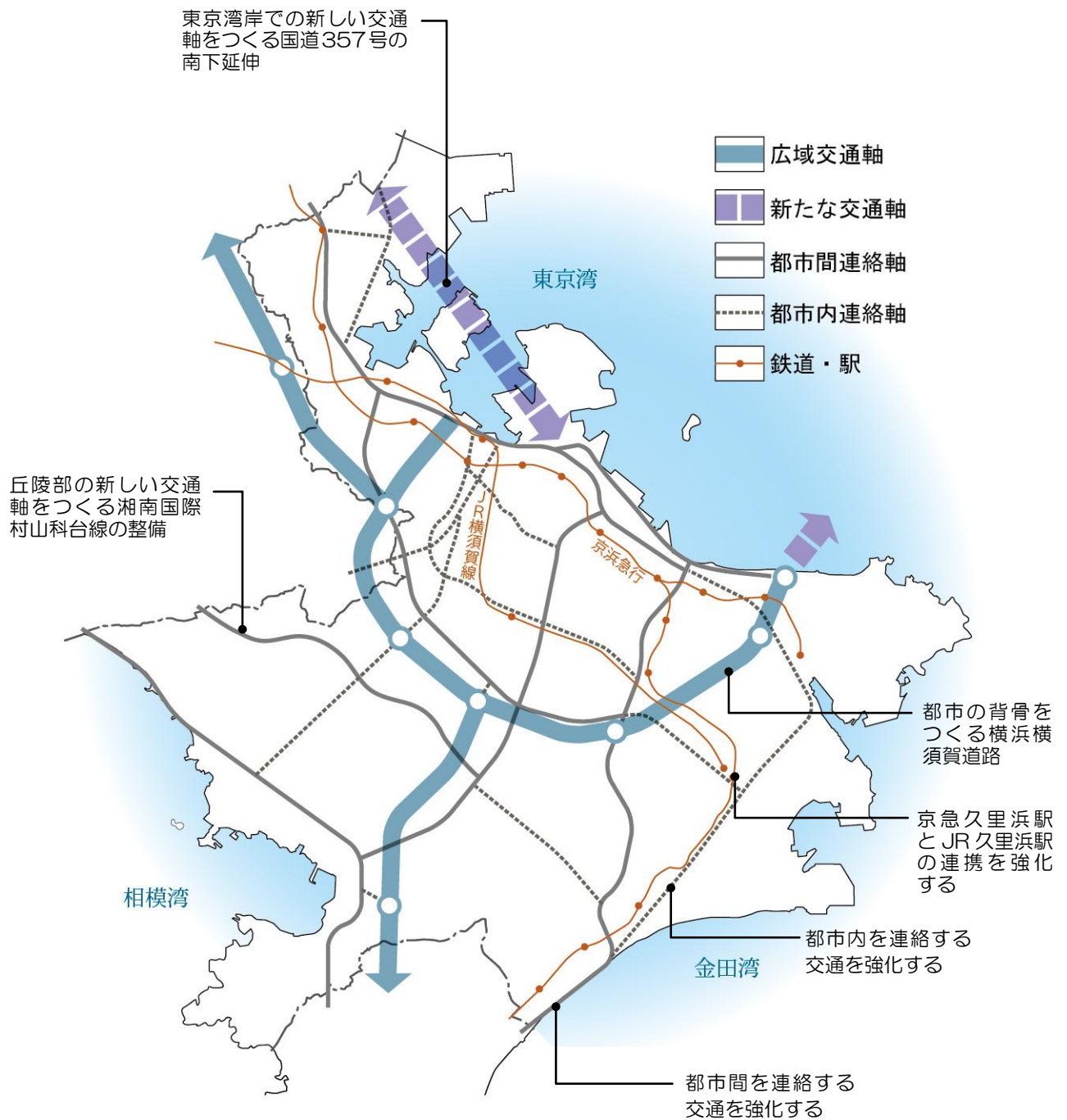
分類		集積強化を図る機能
拠点市街地	都市拠点	商業、業務、行政、各種サービス、高次医療、教育、文化等、本市の枢要な都市機能の集積を図る。
	地域拠点	地域での自立性のある活動を支えるために必要な機能の集積を図る。複合的な商業、業務、各種サービス、教育、文化等の機能や地域医療、地域福祉の機能など。
	地区の生活拠点	日常の買い物やサービスや診療など、日常生活の利便性を高める機能の集積を図る。
周辺市街地	幹線道路の沿道地区	日常の買い物やサービスや診療など、日常生活の利便性を高める機能の集積と、居住機能の集積を図る。
	住宅団地や利便性の高い住宅地	主として居住機能の集積による良好化住環境の形成保全を図る。
郊外市街地		周辺市街地の外縁部等に形成された市街地。道路ネットワークが十分でない地区もあり、長期的には縮退を検討していく。 ※一団の計画開発や再開発などについては、本市の都市づくりの方針に基づき適正に誘導していく。

(2) 骨格的な都市構造

① 拠点の配置と連携



②交通の骨格



※市全体で、拠点市街地と周辺市街地を結ぶバス交通など、公共交通の利便性を向上する。

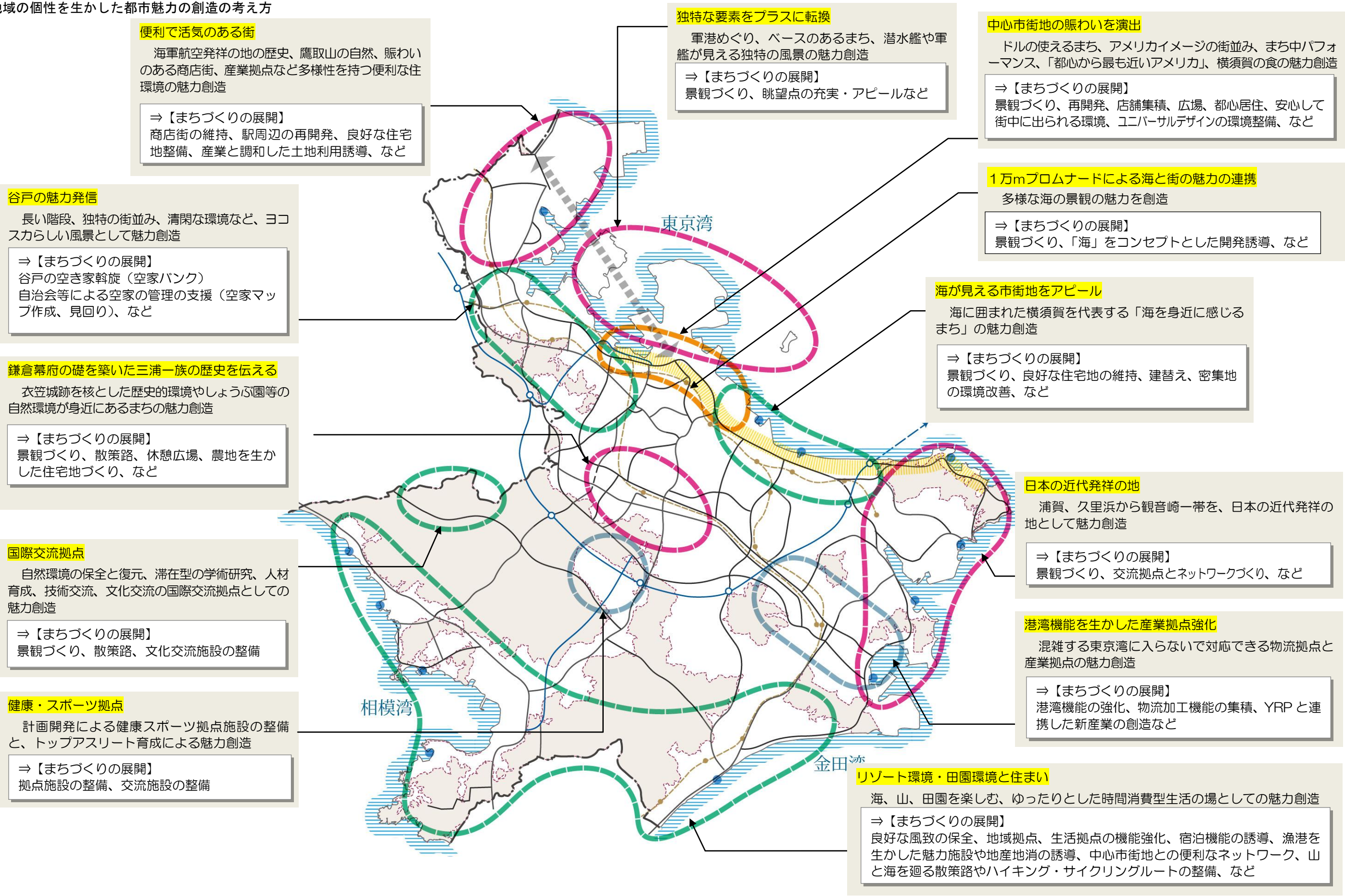
③都市環境の骨格



(3) 都市魅力の創造

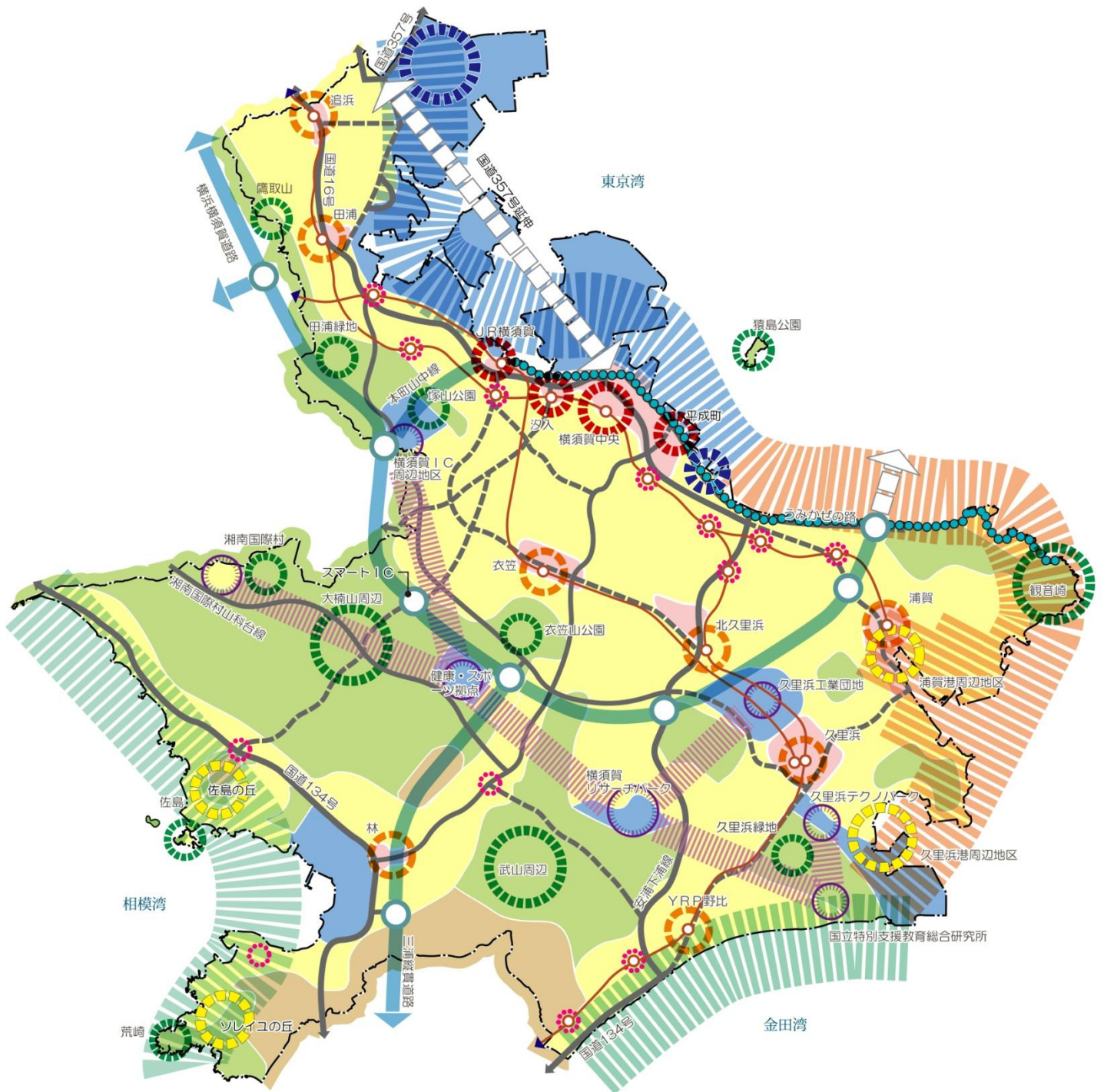
・本市の固有の歴史的資源や自然的資源等を都市づくりに生かし、本市の都市魅力として創造していくことで、定住人口や交流人口の流動を活性化させていく。

◆地域の個性を生かした都市魅力の創造の考え方



(4) 将来都市構造

◆都市計画マスタープランが目指す将来都市構造図



	商業・業務系市街地		都市拠点(中心市街地)		歴史と自然を生かしたリゾートゾーンと産業・交流拠点		都市間を連絡する幹線道路
	産業系市街地		地域拠点(拠点市街地)		良好な海辺の環境を生かしたリゾートゾーンと交流拠点		都市内を連絡する幹線道路
	住居系市街地		主要な地区の生活拠点		自然との交流拠点		鉄道・駅
	農地・農業集落地		丘陵部の研究開発・産業・文化等の交流拠点とその連携		新たな交通軸となる幹線道路(構想路線)		うみかぜの路
	緑地ゾーン		臨海部の産業拠点とその連携		都市の背骨となる幹線道路		